

令和6年度
学校だより
号外
R6. 9. 30

まいづるの子

～ふるさとを愛し 羽ばたく子に～

甲府市立舞鶴小学校



編集 校長 小尾 俊彦

地区回覧・HP用

今回の学校だよりは、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要についての特集号です。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を地域の皆様にお知らせします。

全国学力・学習状況調査の分析結果の概要

1 調査の内容について

- (1) 実施日 令和6年4月18日(木)
- (2) 実施学年 第6学年
- (3) 調査内容 出題範囲は、5年生までの学習内容

【教科に関する調査】

- ◆国語、算数に関する問題
- ◆出題内容は、次の2点を一体的に問うもの
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等に関わる内容

【生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査】

- ◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 本校の結果概要について

- ・算数の平均正答率は、全国平均より高い。国語の平均正答率も、全国平均より少し高い。学習の状況は概ね良好であると言える。
- ・学力のばらつきを表す標準偏差は、2教科とも全国平均より小さい。即ち、学力のばらつきが小さく、正答数分布グラフからも学習が苦手な児童は、全国平均より少ない。
- ・2教科とも「その教科の勉強が好き」「その教科の勉強は大切だと思う」「将来役に立つと思う」と答えた児童は、全国平均を上回っている。学習への関心が高く、意欲的に取り組んでいる様子が分かる。
- ・4年前、児童が2年生の時の1学期、学校はコロナで休校した。また、3年生の時、分散登校も行われた。しかし、その間の学習やそれ以降の指導により学力の面での影響は少ないと考える。

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりする」児童は全国平均より高く、基本的な生活習慣が身に付いていると言える。
- ・「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」児童は、全国平均より高く、充実した生活を送っていることが分かる。

【国語の概要】

- ・国語の勉強は大切だと思い、国語の勉強は好きな児童が全国平均より多い。
- ・平均正答率より高い10問以上正答している児童は、全国平均とほぼ同程度であるが、平均正答率の半分の5問以下しか正答できなかった児童は、全国平均よりとても少ない。
- ・学力のばらつきを表す標準偏差は2.6と全国標準偏差の3.1より小さく、正答数分布グラフを見ても国語が苦手な児童は少ない。
- ・無解答率は、ほとんどの問題で全国平均より低く、何も書けなかった児童は少ない。

【算数の概要】

- ・算数は大切で、将来、社会に出たときに役に立つと思いい、分からないときにいろいろな方法を考えたり、学んだことを活用しようとしていたりしている。
- ・平均正答率は、全国平均より高く、全16問中1問を除いた、残りの15問の正答率は、全国平均を上回っている。算数で学んだことが身に付いている。6割の児童が全国平均正答数を超える11問以上の正答率である。また、平均正答率の半分の5問以下しか正答できなかった児童は、全国平均よりとても少ない。
- ・標準偏差は、全国3.9本校3.1と、学力のばらつきは小さく、正答数分布グラフを見ても算数が苦手な児童は全国平均より少ない。

【これからの指導において】

- ・授業の課題を自分の課題としてとらえ、これまでの学びを生かして主体的に取り組み、友達と話し合いながら共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業「主体的・対話的で深い学び」を校内研究で取り組んできたことが実を結んでいる。これからも継続して共に学びを作る姿勢を大切にしたい。
- ・基本的な構成による表現だけでなく、様々な表現の構成にも柔軟に対応できるようになる高学年である。様々な文章構成で書いたり、「最初に自分の言いたいことを書く」といった条件に即して書いたりするなど、思考力・表現力を伸ばす指導を行いたい。
- ・算数の問題でも理由を付け加えた説明ができなかった児童が多かった。同様に、国語も心に残った文章を引用しても、心に残る理由が提示されない誤答が多かった。まず、指導する教師が「根拠(事実)」と「理由付け」を明確に分けて指導する必要がある。

3 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査結果から見られる特徴本校の結果概要について

【児童質問紙の分析】

◆学校生活について

- ・教員の支援や友達との関わりのなかで、安心して学校生活を送ることができている。
- ・自分と違う意見や友達の考えを大切に、課題の解決に取り組むことができている。
- ・授業でPCやタブレットの利用が少ない実態が見られた。校内研究(情報活用能力の育成、一人一台端末の活用)の取組を生かし、今後さらなる活用を図っていく必要がある。
- ・総合的な学習の時間では、探求的な学習が求められる。主体的に学び、身近にある課題を発見して解決する力を身につけさせたい。

◆生活面について

- ・基本的な生活習慣が身に付いている。
- ・規範意識が高い。
- ・自己有用感がある。
- ・家庭における学習習慣は身に付いている一方で、テレビゲームやSNS・動画視聴の時間が長く課題である。

◆学習に向かう意識について

- ・教科への興味関心の程度は教科によって異なるが、どの教科においても、意欲的に取り組んでいる。
- ・自分で考え、自分で取り組むなど、主体的に学ぶ姿勢が見られ、国語と算数は、学力調査の結果とも結びついている。

- ・学習したことを次の学習につなげ、生活に生かそうとしている。

◆地域との関わりについて

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域の行事が徐々に戻りつつある中で、地域行事に参加する児童も見られる。学校や地域における学習を通して、地域や社会と関わろうとする意識は高い。

4 今後の学校経営の方向性

○基本的な生活習慣等の育成を図ります

今後も引き続きあいさつ運動や無言清掃の推進などを通して、学習のもととなる基本的な生活習慣の定着を図ります。また、家庭との連携をさらに深め、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図ります。

地域との関わりについても、家庭・地域・学校との密なる連携を図りながら、子ども達の危険予知能力・危機回避能力の育成、ふるさとを愛する心の育成、地域に開かれた学校の創造をめざします。

○「思い遣る心」醸成し、より良い学級集団づくりを進めます

子どもがより良く学ぶためには、自尊感情や自己肯定感を持ち、自他を尊重し他者と協働できる民主的で安定した学級集団が不可欠です。子どもたちが学級のきまりを守り、「思い遣る心」を持って互いに助け合う学級づくりを進めます。

○基礎・基本のより一層の定着を図ります

学力の向上を図るため、各学年の発達段階に応じた分かりやすく楽しい授業と個に応じた指導を行い、より一層の基礎・基本の定着を図ります。家庭学習においても、宿題はもちろん、自主学習ノートや市販のドリル等に積極的に取り組めるように指導します。

○「やまなしスタンダード」を推進し、「甲府スタイル」を基にした授業改善を図ります

子ども達が自分の見方・考え方を「広め・深め・つなぐ」学びを進めるために、見通しと振り返り、動き出したくなる課題提示の更なる実践を通して、子どもたちの思考力や判断力、表現力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を行います。また、子ども達の個別最適な学び、協働的な学びを支援できるよう、教科や単元の特性に応じた一人一台端末の効果的な活用に向けて研究を深めていきます。

これらの取組を通して、これからの時代を生き抜く子ども達に求められる「自他を尊重し、協働しながら持続可能な社会の創り手となるための資質・能力」を育成します。